



2009年 10月 22日

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会

2009-2010日本カー・オブ・ザ・イヤー「トヨタ プリウス」に決定！

2009-2010インポート・カー・オブ・ザ・イヤー「フォルクスワーゲン ゴルフ」に決定！

特別賞

Most Advanced Technology	三菱 i-MiEV
Most Fun	日産 フェアレディZ
Best Value	スバル レガシシシリーズ

-COTY30周年記念投票-

Best 3rd Decade Car 第22回 2001-2002 ホンダ フィット

以上のように決定いたしました。

今回で30回目を迎えた、2009-2010 日本カー・オブ・ザ・イヤー最終選考会が10月21～22日、千葉県・幕張メッセにて開催されました。開票の結果、日本カー・オブ・ザ・イヤーは、トヨタ プリウスに決定。インポート・カー・オブ・ザ・イヤーにはフォルクスワーゲン ゴルフが選ばれました。また、特別賞「Most Advanced Technology」に三菱 i-MiEV、「Most Fun」に日産 フェアレディZ、「Best Value」にスバル レガシシシリーズが選ばれました。今年度は日本カー・オブ・ザ・イヤー設立30周年にあたり、第20回～第29回のイヤーカーの中からもっとも印象に残る1台を選ぶ「BEST 3rd Decade Car」を本選とは別枠での投票を行い、第22回2001-2002 ホンダ フィットが選出されました。

■日本カー・オブ・ザ・イヤー投票結果

1位	プリウス	(トヨタ)	433点
2位	インサイト	(ホンダ)	391点
3位	ゴルフ	(フォルクスワーゲン)	186点
4位	i-MiEV	(三菱)	131点
5位	Eクラスセダン/クーペ	(メルセデスベンツ)	125点
6位	アクセラ	(マツダ)	71点
7位	XC60	(ボルボ)	52点
8位	フェアレディZ	(日産)	49点
8位	ミト	(アルファロメオ)	49点
10位	レガシシシリーズ	(スバル)	38点

合計点 1525点 選考委員 61名 有効投票数 61票



各賞の主な受賞理由は以下のとおりです。

■**日本カー・オブ・ザ・イヤー:受賞車 トヨタ プリウス**

ハイブリッドというカテゴリーを生み発展させた結果、時代のニーズに対応している。また手の届く価格で他の追随を許さぬ緻密な制御システムを評価。環境問題に新たな技術で挑戦、大きな成果を上げた。

■**インポート・カー・オブ・ザ・イヤー:受賞車 フォルクスワーゲン ゴルフ**

小排気量エンジンに二種類の過給装置を組み合わせ、独自開発のトランスミッションとの相乗効果により燃費と快適な走行性能を両立した点を評価。自動車として本来望まれる機能と喜びを与えてくれる。

■**Most Advanced Technology:受賞車 三菱 i-MiEV**

高性能リチウムイオンバッテリーを採用し、制御技術を進化させ一般に扱える性能と実用性を持つ世界初のEV量産化に成功したことが評価された。クルマの未来像のひとつを提示してくれた1台といえる。

■**Most Fun:受賞車 日産 フェアレディZ**

スポーツカーとして求められる性能を高い次元で実現している。後輪駆動による運転する楽しみを最新技術により誰もが安全に楽しめるものとした点が評価された。時代の閉塞感を打ち破る、価値ある存在。

■**Best Value:受賞車 スバル レガシィ シリーズ**

20年に及ぶ歴史の積み重ねで熟成の域に達した水平対向エンジンによるAWDシステムをこの価格で実現したことが評価された。最新のSIレーダークルーズなどの運転支援システムも安価に設定されている。
※なお、詳細結果は、日本カー・オブ・ザ・イヤーのホームページに掲載いたします。

■**ご参考** 各賞の受賞者リストは以下のとおりです。

■**日本カー・オブ・ザ・イヤー[トヨタ プリウス]**

トヨタ自動車(株) トヨタ第2乗用車センター チーフエンジニア
大塚 明彦(オオツカ アキヒコ)

■**インポート・カー・オブ・ザ・イヤー[フォルクスワーゲン グループ ジャパン ゴルフ]**

フォルクスワーゲン グループ ジャパン(株) 代表取締役社長
GERASIMOS DORIZAS(ゲラシモス ドリザス)

■**Most Advanced Technology [三菱 i-MiEV]**

三菱自動車工業(株) 商品戦略本部 プロダクト・エグゼクティブ
橋本 徹(ハシモト トオル)

■**Most Fun [日産 フェアレディZ]**

日産自動車(株) 日本商品企画室 リージョナルプロダクトマネージャー
後藤 裕(ゴトウ ヒロシ)

■**Best Value [スバル レガシィシリーズ]**

富士重工(株) スバル商品企画本部 プロジェクト ゼネラル マネージャー
熊谷 泰典(クマガイ ヤスノリ)



日本カー・オブ・ザ・イヤー30周年記念 ベスト サード ディケード カー 「第22回 ホンダフィット」に決定！

2009-2010 日本カー・オブ・ザ・イヤーでは、30周年記念イベントとして「Best 3rd Decade Car」を設定いたしました。これは1999年～2009年、第20回から第29回までのイヤーカー、歴代受賞車10台の中からもっとも印象に残ったクルマを選出するものです。投票は選考委員、実行委員、評議員のすべてによって行われます。ちなみに、20周年記念の際には「ダブルディケード」が実施され、初代プリウスが選ばれました。

■日本カー・オブ・ザ・イヤー3rd Decade 投票結果

1位	第22回	2001-2002	フィット	(ホンダ)	31票
2位	第26回	2005-2006	ロードスター	(マツダ)	28票
3位	第27回	2006-2007	レクサスLS460	(トヨタ)	10票
4位	第20回	1999-2000	ヴィッツ／プラッツ／ファンカーゴ	(トヨタ)	8票
5位	第29回	2008-2009	iQ	(トヨタ)	7票
6位	第28回	2007-2008	フィット	(ホンダ)	6票
7位	第23回	2002-2003	アコード／アコードワゴン	(ホンダ)	1票
7位	第24回	2003-2004	レガシィ	(スバル)	1票
9位	第21回	2000-2001	シビック／シビック・フェリオ／ストリーム	(ホンダ)	0票
9位	第25回	2004-2005	レジェンド	(ホンダ)	0票
合計票					92票

受賞理由は以下のとおりです。

■Best 3rd Decade Car:受賞車 第22回 2001-2002年 ホンダ フィット

独自のセンタータンクレイアウトによるパッケージングで実現した広い車内空間。優れた燃費性能で新しいコンセプトカーのスタンダードをつくった高い完成度をもつクルマとして、この10年を代表するものとして選ばれた。

■ご参考 受賞者は以下のとおりです。

(株) 本田技研工業 執行役員 四輪商品担当 横田 千年 (ヨコタ チトシ)



日本カー・オブ・ザ・イヤーは、雑誌やWebを中心とした33 媒体からなる実行委員会（実行委員長 三好正巳）から構成されており、実行委員会から選出された選考委員61名が、実際に投票を行ってイヤー・カーを選び出すシステムとなっております。

30回目となる、2009-2010日本カー・オブ・ザ・イヤーは、2008年11月1日から2009年9月30日までに日本国内に於いて新型車として発売されたクルマから39台をノミネート、この39台の中から選考委員61名の投票により、10月6日に10ベストカーが決定されました。その後、10月21日に幕張メッセ 東京モーターショー 日本・カー・オブ・ザ・イヤー30周年特別記念展会場にて選考委員61名の投票を実施。同日その開票を行い、イヤーカーを選出しました。

各委員の持ち点は25点で、1車種に満点となる10点を必ず投票、残り15点を4車種に配点することが義務づけられています。また、今年度はイヤー・カーが国産車であったため、輸入車のなかで最も得点の高かったゴルフに、インポート・カー・オブ・ザ・イヤーの栄誉が与えられることとなりました。また、特別賞3賞は39台のノミネートカーの中から、各賞に値するクルマに選考委員が1ポイントを投票して選出、決定されました。

また、今年度は日本カー・オブ・ザ・イヤー設立30周年にあたり、第20回～第29回の日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞車の中から1台を選ぶ「3rd Decade」を設定。選考委員61名に加え、実行委員33名、評議委員5名の計99名による投票を本選とは別に行い、もっとも印象に残った1台として第22回 ホンダ フィットが選出されました。

■この件に対する問い合わせ先

日本カー・オブ・ザ・イヤー事務局

e-mail:info@jcoty.net

日本カー・オブ・ザ・イヤーURL : <http://www.jcoty.org/>

プレス専用サイト URL : <http://www.jcoty.org/press/press.html>